

大田区立大森第三小学校
学力向上を図るための全体計画

令和7年度
2025.8

おおた教育ビジョン

意欲をもって自ら学び、考え、
主体的に行動することも

学校の教育目標

○元 気 な 子 ○考 え る 子
○が ん ば る 子 ○や さ し い 子

保護者・地域

家庭・地域の実態
保護者・地域の期待や願い

学校経営方針(学力向上にかかわる要点)

～「分かる・できる・使える知識と技能」の育成～

○授業改善推進プランの実施を徹底し、学び方を学ぶ授業改善に取り組む中で、基礎学力の定着と問題解決力の育成に努め、意欲的・主体的に学ぶ姿勢を養い、未来の社会を担う人づくりに努める。

各教科の指導の重点

- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
- 体験的・問題解決的な学習を重視するなど、学習指導方法の工夫・改善に努める。

基礎基本の定着

- ・朝学習・補習教室を週計画で位置付ける。
- ・家庭学習の励行 ・音読は毎日の宿題

基本的な生活習慣の定着

- ・「大三小10のやくそく」学習規律の確立
- 低学年・中学年・高学年に応じたプランを作成しプランの実行を月ごとに振り返る。

道徳教育の指導の重点

- 良好な言語環境とコミュニケーションを目指した挨拶と言葉遣いの指導を図る。
- 規範意識の向上を図る教育と自他の人権を尊重する教育の充実を図る。

生活科、総合的な学習の時間等の指導の重点

- 「健康」をテーマにした単元の学習を充実させ、地域と連携した健康教育の指導を推進する。
- 様々な人との関わりを通して、地域への愛着心を育てる。
- 各学年の児童の興味・関心に基づいた課題解決能力を高める活動を展開する。
- 各学年とも、外国語活動に取り組み、コミュニケーション能力の育成を図る。

本校の考える
「確かな学力」

- 学ぶ意欲
- 学習習慣の確立
- 課題解決力
- コミュニケーション能力
- 基礎学力の定着
- 生活にいかす力

特別活動の指導の重点

- 保健学習、学級指導において、自らの健康について考え、健康を保持増進する方法を学び、実践する力を育てる。
- 縦割り班による異学年交流、委員会活動やクラブ活動、さらに集会や朝会等の集団活動を通して個性の伸長を図り、みんなでよりよい生活を築こうとする自主的・実践的態度の育成する。

生活指導の重点

- 全職員の共通理解で指導にのぞむ
- 基本的な生活習慣の徹底
- 規範意識の向上
- 人権を尊重する教育の充実
- 挨拶と言葉遣いの指導
- 安全意識の向上

本校の授業改善の視点

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
* 課題解決学習や体験学習を重視し、児童の主体的な活動を引き出す指導法を工夫する。 * 地域をいかした教材を用いたり、外部講師を招聘したりする授業を多く取り入れる。 * 児童の習熟の程度や興味・関心等に応じた個別指導と少人数指導を推進する。 * 各教科を通して、自分の思いや考えを深め、適切に表現する能力の育成を図る。 * 生活にいかせる国語力の向上を図る。言葉や語彙の指導に重点を置く。	* 授業時間を確保するとともに、朝学習の際にも基礎基本の定着、学ぶ意欲、表現力、思考力などを培う。 * 読み聞かせ、読書活動を計画的に取り入れ、豊かな感性の育成や知識と読書習慣の定着を図る。 * 週ごとの指導計画による計画的な指導の実施と時数確保に努める。 * 放課後の補習教室を実施し、学力の定着を図る。	* 地域の人材・病院等関係機関と連携を図りながら、持続可能な健康教育となるよう、指導計画を見直す。 * 伝え合いや話し合いを通して、自分の考えをよりよくする子の育成を目指す授業研究に取り組む。 * おおたの未来づくり科のエリア協議会を実施し、授業改善に生かす。 * 教育相談研修や校内指導体制の充実を通して児童理解を深め、学習支援能力の向上を図る。	* 学習指導要領を踏まえ、年間指導計画に基づく、評価規準・評価計画の改善・活用を図る。 * 地域教育連絡協議会への、学校公開等の参観を通して外部評価を受け、改善にいかす。 * 評価結果の公開や改善策について学校だよりやホームページ等で情報公開する。	* 学校支援地域本部(スクールサポートおおさん)の協力を得て、地域の人材を活用した授業やわくわくスクールを推進する。 * 基本的な生活習慣や家庭での過ごし方(生活リズム・家庭学習等)の定着のために、より密接に家庭や地域との連携を図る。 * 区・PTA・地域行事等において児童の活動発表を積極的に推進する。 * 保・幼・小・中の情報交換や交流活動を深める。

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・漢字の読み書きはおおむね身に付いている。
- ・聞く力はおおむね身に付いている。
- ・物語の内容を読み取る力、説明文の要約や要旨をつかむ力はおおむね定着している。

(2) 課題

- ・場に応じて言葉を豊かに使う力を伸ばしたい。
- ・相手や目的に応じて自分の考えをまとめたり、文章を書いたりする力に課題があり、話し合いや作文を書くことをやや困難にしている。
- ・主体的に学習に取り組む態度は個人差が大きく、それが、知識・技能、思考力・判断力・表現力における課題になっている。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値より高い。 区平均正答率より高い。 全国平均正答率より高い。		
第5学年	目標値より高い。 区平均正答率より若干高い。 全国平均正答率より高い。	目標値より若干低い。 区平均正答率より低い。 全国平均正答率より低い。 (第4学年時)	
第6学年	目標値より高い。 区平均正答率より高い。 全国平均正答率より高い。	目標値より高い。 区平均正答率より高い。 全国平均正答率より高い。 (第5学年時)	目標値より高い。 区平均正答率より若干高い。 全国平均正答率より高い。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・第3学年に配当されている漢字は、ほとんど正しく読み書きができています。 ・主語と述語との関係、国語辞典の使い方に対する理解が不十分である。 ・漢字のへんやつくりの理解はしている。	・話の内容を聞き取ること、物語の内容の読み取りはとてもよくできている。説明文でも、段落ごとの内容をとらえること、中心となる語や文を見つけて要約することの理解が高い。 ・文章を書くときの相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にする問題に課題がある。 ・司会や役割を果たしながら話し合い、考えをまとめる問題も課題がある。	・目標値を満たす児童の割合は高い。 ・思考を伴う問題の無回答率が増加している。また、知識・技能及び思考・判断・表現といった他の力との関連性もあり、個人差が大きく、学級差も大きい。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 第5学年は漢字の読み書きの力は定着している。 - 言葉の学習、主に連体修飾語についての理解に課題がある。 - 第6学年は、漢字の読み書きの力は定着している。敬語を正しく使う力と漢字の由来に関するものを身に付ける必要がある。	- 第5学年は、話し合いの内容を聞き取る力や、物語の内容を読み取る力、説明文の内容を読み取る力は定着している。一方で、調べたことを基に文章を書く力に課題がある。 - 第6学年は、物語の内容理解の力、描写を基にして心情を読み取る力が定着している。目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にして書く力を身に付ける必要がある。	- 個人差が非常に大きい。 - 第5学年は、概ねよく学習に取り組んでいる。しかし、個人差も大きく、主体性の度合いと、知識・技能及び思考・判断・表現といった他の力との関連性も大きい。 - 第6学年は、学習の目的を自分で設定し、どのように取り組むか計画をすることができるが、自分の考えや感じたことを、話し合いの場で積極的に発言して表現することに課題がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 平仮名や漢字の学習の際に、言葉集めの活動を積み重ね、日常生活で使うことができる語彙を増やす。 - 教材文を繰り返し読んだり視写を取り入れたりして言葉や表現、まとまりのある文章の読み方を身に付けさせる。 - タブレット端末を活用し、拗音や促音、撥音の表記や助詞の使い方の定着を図る。	- 相手や目的に合わせて話したり書いたりすることができるように、必要な言葉を確認したり選んだりして活動に取り組ませるようにする。 - 教材文を繰り返し読み、場面絵や写真を活用しながら文章の内容や出来事の順序を正しく捉えさせる。	「話す・聞く、書く、読む」の基本を丁寧に確認し、他教科との連携を図りながら身に付けたことをいかす活動を設定する。 - ペアやトリオの少人数での活動を取り入れたり、教師が手本を示したりすることで自信をもって言語活動に取り組めるようにする。 - 司書教諭と連携して読書活動を行い、読書を楽しめる環境を整えることで、読書量を増やす。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 漢字の読み書きでは漢字指導、ミニテスト等を通して細やかに指導をする。 - 主語と述語について単元だけでなく、朝の「学びタイム」等でも副教材『書くって楽しいね』を活用して理解を確かなものとしていく。 - 日記を書く活動や作文の学習時に、文字数や段落構成を指定し、条件に合わせて文章を書く経験を積ませる。	- 説明文の学習では、段落ごとに小見出しを付けたり、要点をまとめたりして内容をとらえさせる。 - 中心となる語や文を見つけて要約していく活動を設定する。 - 文章を書く際には、文章構成図を作成し、構成を意識させる。 - タブレット端末を使用し、友達の考えを見合う場を設ける活動を増やす。	- ペアワーク、グループワークを取り入れ、友達との交流の場を多く設定する。 - 書く学習では、身近な生活や空想の世界等を題材にした活動を取り入れ、書く意欲を高める。また、週末日記の課題に取り組み、習慣化する。 - 司書教諭と連携して、単元で活用できる資料や本を集め、幅広い読書ができる環境を整える。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・教科書巻末の付録(言葉の宝箱等)を、授業で活用する機会を増やし、語彙力の向上を図る。 ・教科書の「言葉」の学習で学んだことを、日常会話や作文の時間に活用させ、繰り返し学ぶ時間を設定する。	・文章を書く際には、組み立てメモ等を使い、相手や目的を意識させ、伝えたいことを明確にできるようにする。 ・話し合い活動では、その意義や必要性を理解させる。振り返りの時間を十分確保し、自分の考えがどのように変化したかを確認させたり、友達の考えの変化を認めたりする活動を行う。	・自分の課題や学習の達成状況を可視化するなどして、意欲的に目標をもって取り組めるようにする。 ・既習事項を活用する場面ではゲーム性の要素を取り入れるなどし、活用する楽しさを感じられるような工夫を行う。 ・司書教諭と連携して様々なジャンルの本を紹介し、すすんで読書をする環境を整える。

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学年が上がるにつれて、グラフや資料の視聴覚教材を用いて考察する時間を確保することにより、それぞれの資料を個別に読み取る力は定着してきている。
- ・ICT機器を用いて調べ学習や表現活動を行ったり、体験的活動を取り入れたりしたことで、社会科に対する意欲・関心を維持し、学習内容の理解をすすめることができた。

(2) 課題

- ・資料の内容を正しく読み取り、複数の資料を比較したり、関連付けたりして資料を総合的に読み取る力が学年によってばらつきがある。
- ・社会に関する用語・語句を正しく理解していないため、具体的知識を理解したり、考えたことや選択・判断したことを表現したりする力が乏しく、自分の言葉でまとめることができていない児童がいる。
- ・各学年、4年生の時の結果が目標値、全国・区平均よりも低い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値よりも低い。 全国平均正答率よりも低い。 区平均正答率よりも低い。		
第5学年	目標値よりも高い。 全国平均正答率よりも高い。 区平均正答率よりも高い。	目標値よりも低い。 全国平均正答率よりも低い。 区平均正答率よりも低い。 (第4学年時)	
第6学年	目標値よりも高い。 全国平均正答率よりも高い。 区平均正答率よりも高い。	目標値よりも高い。 全国平均正答率よりも高い。 区平均正答率よりも高い。 (第5学年時)	目標値よりも低い。 全国平均正答率よりも低い。 区平均正答率よりも低い。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値よりも低い。 ・消防や警察、昔の生活の知識など、普段の自分たちの生活に慣れ親しみの少ない単元での正答率が低くなっている。 ・用語等の基礎的な知識が身に付いていないことが、資料を正しく読み取れない要因となっている。 ・各単元で押さえるべき知識の習得を確実にする必要がある。	・目標値よりも低い。短答・選択式問題では比較的に平均的な点数が獲得できているが、記述式で平均から大きく下回っている箇所がある。 ・社会的な事象に着目して、調べたことを比較・分類、または関連付けて考えたり、考えたことを言葉で表現したりすることができないことが要因となっている。	・社会科の学習に対して意欲をもって取り組んでいる児童が多い。 ・資料やグラフの数値が正しく読み取れず、それぞれの関連性を見出すことが出来なかったことが、正答率が上がらない要因と考えられる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値を上回り、おおむね良好である。 ・資料を読み取る力が、身につけている児童とそうでない児童との差がある。	・目標値を上回り、おおむね良好である。 ・第6学年は、表や資料を正しく読み取る問題についての正答率が低い。 ・資料を多面的、多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する力を付ける必要がある。	・目標値を上回り、おおむね良好である。 ・調べ学習に意欲的に取り組み、自分との生活と結び付けて考え、発言できるようになっている。 ・社会的事象に興味をもったり、自分の生活とのつながりを考えさせたりすることで、学んだことを活用する力を高め、日頃から社会科に親しむ態度を養う必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ワークシートやICT等を活用して、消防や警察、昔の生活を繰り返し指導して、知識の定着を図る。 ・調べ学習では、教科書だけでなく、副読本などと比較しながら資料の活用の仕方を繰り返し指導し、資料活用の技能を向上させる。	・記述力を高めるために、学習問題に対する自分の考えや資料から読み取ったことなどを自分の言葉で表現する機会を多く設定し、表現力を養う。そのために、個人で考える時間を十分に確保した後、集団で話し合い学び合うといった学習形態を意図的に取り入れる。 ・学習感想を毎時間書かせ、分かったことだけでなく、疑問点にも着目し、次の学習につながるようにする。	・ICTを活用し、資料提示を工夫する。体験的な活動を取り入れ、児童が意欲をもって学習に取り組めるようにする。 ・社会的事象を自分事として捉え自分たちには何ができるのかを選択・判断することを通して、主体的に関わっていく態度を養う。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・資料の見方を押さえ、そこから分かることを全体で共有する時間を確保する。 ・学習内容の定着を図れるよう、繰り返しワークシートに取り組んだり、他教科や身近な出来事と関連付けたりして理解できるように授業を工夫する。	・表や資料における数値の変化や、他の資料との違いなどに着目しながら、社会に見られる課題を把握したり、それらに関わる方の思いや工夫を読み取ったりして、その解決のために、自分たちにできることを選択・判断させるように発言、まとめさせる。 ・社会科用語や単元の重要語句の意味を理解しながら使い、自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。	・ICTを活用し、生活と関連付けて児童に身近な問題として捉えられるようにする。 ・児童に疑問をもたせ、興味を引き出しながら学習問題をつくる。 ・単元の中に協働的な学習を取り入れる。

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学習効果測定の結果、全学年の正答率が目標値、全国平均を上回り、基本的な内容が定着している。また、問題の内容別に見ても、半分以上が目標値を上回っている。
- ・テストや学習効果測定の結果から基礎的な計算や図形の作図の仕方は定着している。
- ・家庭学習や授業中にタブレットドリル等で復習を行うことで、学力の定着につなげることができている。

(2) 課題

- ・第5学年では学力効果測定の区平均を若干下回った。
- ・量感を養ったり、比べたり活用したりする経験が不足しているため、改善していく必要がある。
- ・自分の考えを言葉で書き表したり、発表したりすることが苦手な児童が多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値よりも高い。 全国平均正答率よりも高い。 区平均正答率とほぼ同じ。		
第5学年	目標値よりも高い。 全国平均正答率よりも若干高い。 区平均正答率よりも若干低い。	目標値よりも高い。 全国平均正答率よりも高い。 区平均正答率よりも高い。 (第4学年時)	
第6学年	目標値よりも高い。 全国平均正答率よりも高い。 区平均正答率よりも高い。	目標値よりも高い。 全国平均正答率よりも高い。 区平均正答率よりも高い。 (第5学年時)	目標値よりも高い。 全国平均正答率よりも高い。 区平均正答率よりも高い。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・全体では、目標値よりも高い結果となった。 ・たし算・ひき算の理解が目標値を下回った。 ・大きい数・小数・分数の結果は大きく上回った。	・全体では、目標値と同等な結果となった。 ・円と球・三角形の問題は、やや目標値を下回り、課題がある。 ・表と棒グラフは、目標値を大きく上回った。	・基礎的な問題の正答率は比較的良い。 ・学習に取り組む意欲は見られるが、活用問題に粘り強く取り組むことに苦手意識がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 目標値および全国平均値を上回り、第5学年のみ区の平均を若干下回った。 - 第5学年では、「数の大きさ」、「角の大きさ」、「図形」についての正答率が低かった。 - 第6学年では、特に「小数の計算」と「割合」の正答率が低い。	- 目標値および全国平均値を上回り、第5学年のみ区の平均を若干下回った。 - 第5学年では、「計算のきまり」の式を見て文章問題を選ぶ問題の正答率が低かった。 - 第6学年では、立体と体積」の正答率が目標値を下回った。	- 計算問題や作図の問題は積極的に取り組む様子が見られる。 - 図を用いて自分の考えを表現し、説明することを苦手としている児童が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 算数科領域「量と測定」では、具体物を操作して確かめる機会をもつ。その際、できる限り実生活と結び付けることで、数量に関するイメージをもたせ、理解につなげられる指導を行う。 - ICT 機器や計算カード等を用いて、基礎となるたし算、ひき算かけ算練習を繰り返し行い、定着させる。	- 文章の読み取りが苦手な文章問題の立式が難しい児童には、問われている箇所に線を引いたり、図をかいたりしてから式を立てるようにする。 - 計算の仕方などについて、形式的な手続きの理解に偏らないよう、ブロックなどの具体物や図を活用して思考力を深める。	- 発問時におけるデジタル教科書の活用や、算数的な活動を計画し、具体物を用いて学習を進めるなど、児童の興味・関心を高める工夫を凝らした授業展開を行う。 - 生活や遊びとつながる問題設定・児童が選べる課題や活動を取り入れる。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 身近な具体物や日常生活の場面を用いて量感を養ったり、比べたり活用したりする経験を取り入れ、活用する力を伸ばす。 - 基礎となる四則の混合した式や公式について、授業内だけでなく平日補習や宿題などで反復練習をしていくことで定着を図る。	問題解決の場面を多く設定することで、問題把握の力を養う。また、数直線を活用し、問題を把握する力を養い、立式にいかせるようにする。	- 既習事項の確認を通して自力解決に向けての筋道を立て、自分で問題解決ができたという達成感をもたせる。 - 单元ごとに学んだことを活用して、応用問題を解いたり、解いた問題を児童の言葉で説明させたりする場をつくる。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「割合」では、人数の割合を求める計算の正答率が低いため、	問題解決の場面を多く設定し、数直線を活用した問題の把握	調べたり比べたりする活動を増やすとともに、常に見当をつけ

数直線や図で表す指導を徹底することで問題場面を把握し、正しい立式をする力を養う。 ・小数の計算では、乗法や除法に関して成り立つ性質を生かして小数の掛け算や割り算の筆算を行うことを丁寧に押さえ、宿題や平日補習で反復練習を行い、確実な定着を図る。	を通して、児童が数学的な表現を使って自分の考えを簡潔・明瞭・的確に表現したり、目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。	たり予想を立てたりしてから取り組むことで、豊かな量感を育て、関心意欲を高めるようにする。 ・「割合」「平均」などの授業では、日常のデータや他教科の資料などを教材として活用することで、自らの生活と関連させながら学んでいく姿勢を育てていく。 ・既習事項の確認を通して、自力解決に向けての筋道を立て、自分で問題解決ができたという達成感をもたせる。 ・基礎的な作図や折れ線グラフの理解を基に、単元全体の内容を活用できる課題に取り組みせる。
--	--	--

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・写真や動画を見せて具体的な場면을提示することで、予想、実験、観察、考察までが考えやすくなり、思考を伴う問題の正答率が高くなった学年がある。

(2) 課題

- ・観察や実験を行うことが比較的難しい自然現象について、知識・技能の定着が不十分である。
- ・全体的に平均正答率が低く、身に付けた知識を生活と関連付けて考え、活用する力が不十分である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値よりも低い。 全国平均正答率より高い。 区平均正答率より高い。		
第5学年	目標値より低い。 全国平均正答率より高い。 区平均正答率より高い。	目標値よりも低い。 全国平均正答率より低い。 区平均正答率より高い。 (第4学年時)	
第6学年	目標値より低い。 全国平均正答率より低い。 区平均値より高い。	目標値より低い。 全国平均正答率より低い。 区平均正答率より高い。 (第5学年時)	目標値よりも低い。 全国平均正答率より低い。 区平均正答率より高い。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値や全国正答率を部分的に下回っている。 ・「身近なしぜんのかんさつ」「太陽と地面のようす」「光のせいしつ」、「風やゴムのはたらき」の基礎的な問題の正答率が、目標値や全国正答率を下回っている。	・全体的に目標値を下回っている。特に「植物の育ち方」、「じしゃくのせいしつ」の思考を働かせる問題の正答率が低い。 ・学んだことを身近な日常生活に広げ、適用して考えられるように指導を工夫する必要がある。	・ほとんどの問題で無回答が一定数見られる。特に、実験等の理由を説明する問題での無回答が高い傾向にある。 ・学んだことを活用して問題に取り組んだり、日常生活と関連付けて考えたりする必要がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・第5学年は、「植物の成長」「天気のようにす」と気温」「月と星」の正答率が低く、「電気のはたらき」の正答率は、やや低い。観察、実験した結果が、知識に結	・第5学年は、「天気のようにす」と気温」「雨水のゆくえと地面のようす」の正答率が低く、「電気のはたらき」の正答率は、やや低い。問題の文章を正しくとらえるこ	・実験や観察に、興味、関心をもって取り組んでいる。 ・学んだことを日常生活や他の教科にいかすことが難しい。

びついていない。 ・第6学年は、「植物の発芽と成長」、「電流のはたらき」についての正答率が低い。ヨウ素でんぷん反応についての理解が不足している。また、顕微鏡の使い方や、電流が作る磁力について調べる方法の知識が見に付いていない。	とができていないことや、条件制御について理解ができていない。 ・第6学年は植物の発芽について、発芽する条件を確かめるための実験計画を構想することに課題がある。また、根拠のある予想や仮説を発想し、表現することにも課題が見られる。	
--	--	--

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実験や観察を行う前に、方法や注意点についてしっかりと指導し、知識を確実に定着させる必要がある。 ・重要語句や資料を掲示し、それらに触れる機会を多くすることで定着を図る。 ・観察、実験の機会や時間を十分に確保する。また、実験の過程から得られた結果を「どのように記録すると結果が分かりやすくなるか」を考えさせながら、学習に合わせて表やグラフ、図などを適切に用いて記録できるよう指導する。	・理科の見方や考え方を働かせるように、「どのように物事をとらえさせるか」という主な視点や考え方を提示する。 ・イメージ図をかかせるなど、観察を重要視し、思考力を養えるようにする。その際、グループで話し合い活動を入れるなど、言葉で説明する機会を設け、言語化する力を養うようにする。 ・学習したことを他の似た事象にも応用できるよう、既習事項との関連を考える機会を設ける。	・児童がもつ、自然現象に対する疑問を基に問題作りを行うなど、学習の展開を工夫する。また、単元の導入などでは適切な資料を掲示する。 ・体験的な活動を取り入れることで実感を伴った理解を図り、学習内容と日常生活のつながりを考えられるような場面を設定する。 ・実験結果の考察を行う際、友達のを考えを聞く機会を設ける等考えるきっかけを与え、自分なりに粘り強く取り組むことができるようにする。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自然の不思議さや面白さを知ることができるように、実験や観察などの体験活動を充実させ、知識・技能の定着を図る。 ・重要語句や資料を掲示し、知識の定着を図る。 ・観察、実験の機会や時間を十分に確保する。また、動画など資料を用いて実験器具の安全かつ適切に扱う技能を習得させる。 ・実験方法を確認する場面では、担任が器具の説明をするとともに、実験の方法を手本として見せることで、器具の使い方や方法についての理解が定着するようにする。	・生活との関連を図るため、教科書に掲載されている QR コードや写真を活用して具体的な場면을提示し、予想、計画を立てられるようにする。 ・実験の結果と、結果から分かることや考えられることから考察できるよう指導する。また、結果から分かったことを記述させるとともに、既習事項の学習内容や日常生活の事象と関連付けて考えたことを記述させ、理解を深めさせる。 ・予想から考察までをまとめる方法の基本の型を提示し、指導することで、考えを表現できるよ	・単元の導入時に、児童が自然の事物や事象と関わるような工夫を取り入れ、意欲を引き出す。 ・実験や観察の時間を十分に確保し、体験を重視した内容や学習を展開する。 ・学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。

・単元末に学習内容全体をまとめ、整理し、知識・技能の定着を図る。 ・繰り返し問題を解くことで、基礎的・基本的な知識の定着を図る。テストパークを実施し、自己の定着度を確認させるとともに、確実に知識を身に付けさせる。	うにする。	
---	-------	--

令和年7年度 外国語 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1. 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「単語や表現の意味理解」の項目は正答率が高く、教科、曜日、施設名などの単語の読み方や意味を理解している。
- ・「日常会話の理解」の項目も目標値を上回るだけでなく、すべての設問で正答率が9割以上と高く、名前のスペル、誕生日、教科を理解することができている。
- ・「英文の完成」については目標値および全国平均正答率を大幅に上回っており、場面や状況に即した英文を適切に書くことができています。
- ・英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童が増えた。
- ・既習表現を使って自分の考えや気持ちを伝えようとする児童が増えた。

(2) 課題

- ・アルファベットの音声を聞き、活字体の小文字や大文字を正しく書く力については、全体としては目標値および全国平均正答率をやや上回っているものの、設問によっては全国平均正答率より低いものもあり、定着度が十分でない。
- ・「会話全体の理解」の正答率については、目標値をやや上回っているものの、正答率はやや低く、日常生活に関する対話の聞き取りから場面や状況を推測する力に課題がある。

2. 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第6学年	目標値よりも高い。 全国平均正答率よりも高い。 区平均正答率よりも高い。	目標値よりも高い。 全国平均正答率よりも低い。 区平均正答率よりも低い。	目標値よりも高い。 全国平均正答率よりも高い。 区平均正答率よりも高い。

(2) 分析（観点別）

6年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値を上回っている。 ・アルファベットの大文字および小文字の読み書きの正答率は、目標値を上回っているものの、やや正答率が低い傾向にある。 ・日常会話の聞き取りについては正答率が高く、内容をよく理解している。	・目標値を上回っている。 ・日常会話の聞き取りにもとづいた場面・状況の推測については、目標値を上回っているものの、やや正答率が低い。 ・例文を参考にしながら自分のことについて文を完成させる問題については、目標値および全国平均を大幅に上回っており、高い正答率を示している。	・目標値を上回っており、良好といえる。 ・例文を参考にしながらあこがれの人を紹介する問題、および自分の誕生日を書く問題では、無回答の割合が少なく、積極的に英語を使って書こうとする意欲がうかがえる。

3. 授業改善のポイント（観点別）

①第6学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・アルファベットの音声と文字を結び付けさせる活動を継続的に	・外国語講師または教師が英語だけで発話する場面を設定し、ど	・児童が学習した英語表現が日常でどのように使われているのか

行い、文字の正しい識別をできるようにする。 ・アルファベットの正しい書き方を身に付けさせ、音声の定着を図ったうえで単語の書き取りをできるようにする。 ・過去形の動詞を正しく聞き取り発話できるようにすることで、中学校英語への円滑な接続を図る。	のような目的や状況かを児童に推測させる場を設ける。 ・過去形の表現を用いて最近行ったこと、および6年間の学校生活で行ったことを自分で考え、英語で伝え合うことができるようにする。 ・小学校6年間で学習した英語を総合的に使えるように様々な場面や状況を設定したうえで、自分のことについて伝え合う活動を用意し、既習の英語表現を自分の判断で適切に使えるようにする。	を紹介し、必然性のある目的や場面を意識させることで英語を使うことに対する動機付けを行う。 ・フォニックス教材を有効に活用し、発音の仕方やルールについての児童の興味・関心を高められるようにする。 ・例文を参考にした英作文を繰り返し行い、自信をもてるようにする。
--	---	---

②第5学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・アルファベットの音声に十分に慣れ親しませ、音と文字を結び付けられるようにする。 ・月、日付、教科、職業、性格を表す形容詞、日常生活の動作といった身近な語彙を習得させ、聞き取って理解できるようにする。 ・チャンツ等を使い、リズムに合わせて単語を覚える練習を繰り返す。	・デジタル教科書や絵カードを活用し、外国語講師による発声を繰り返し聞くなど、十分に聞く活動を行う。 ・学習した言葉や表現を十分に理解した上で、単語レベルにとどまらず “I am…” “I can…” “She is…” “He is…” など文として自分の力で構成し発話できるようにする。 ・自己紹介やあこがれの人の紹介など、目的をもって伝え合う会話活動を通じて、学んだ英語を総合的に表現できるようにする。	・児童が聞いてみたい、言ってみようと思えるような必然性のある目的や場面を設定し、英語を使ってみたいという意識を高めるようにする。 ・音声や視聴覚教材を有効に活用し、英語の使用場面や異文化理解についての児童の興味・関心を高められるようにする。 ・例文を参考にした英作文を繰り返し行い、自信をもてるようにする。

令和7年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・身近な植物を育てたり動物と触れ合ったりする活動を通して、生き物への関心が高まり、命を大切にす
る気持ちが芽生えた。校庭の周辺の花壇や裏庭、畑等の環境をいかして、草花遊びや虫の観察、草花、
野菜を育てるなどの活動ができた。
- ・友達や教職員、学校や地域を支えている人々と触れ合う機会、1・2年の交流の場の設定、夏休みや冬
休み等を利用した家庭での手伝い等の活動を充実させたことで、自分達は多くの人に支えられているこ
と、家族や学校の一員であること、自分の成長など気付きが増えた。

(2) 課題

- ・意欲や自信をもって生活を豊かにしたりしようとすることを繰り返し、児童の気付きや思考を共有し、
深める授業展開が必要である。

2 授業改善のポイント（観点別）

低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くことができるよう、気付きの発達段階を教師が理解して適切な発問や価値付けをする。また、一人一人の気付きを関連付けて共有化を図る。 ・生活上必要な習慣や技能を身に付けることができるよう、指導内容の明確化及び学習活動を工夫する。	・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりにおいて見付ける、比べる、試す、例えるなど視点をもって捉え、表現できるようにする。 ・作品を掲示したり、発表の場を設けたりして、自分の表現にいかしたり、互いに相手のよさを認めたりできるようにする。 ・自分で選択する活動を取り入れ思考・判断・表現する過程を大切にす。	・実物や関連図書の紹介、教室掲示をするなど、植物や生き物などが自然と目に触れるようにし、「やってみたい」と思うような環境づくりをする。 ・様々な人々との関わりや、活動や体験の場を繰り返し設定し、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぶことができるようにする。

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・前時との学習のつながりや、題材の学習のながれを示すことで、学習の見通しをもつ児童が増えた。
- ・ICTを活用したリズムづくりにより、プログラミング的思考力を高めることができた。
- ・毎時間のふりかえりをねらいに沿ってICTやワークシートを組み合わせることで、一人一人の学習状況を即時的に把握・記録し、個に応じた指導や個別の課題設定がしやすくなった。

(2) 課題

- ・歌唱が好きな児童が多く声量はあるが、響きのない声で怒鳴るように歌ってしまう児童もおり、発声に課題がある。器楽の時（主にリコーダー）には、机があるため、姿勢が悪くなってしまう児童が多い。
- ・基礎的・基本的な技能の定着にむけての個に応じた指導に比率が偏り、協働的な学びの充実に向けた活動時間の確保が不十分である。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・演奏するときの姿勢や、鍵盤ハーモニカの運指、タンギングなど、一つずつ丁寧に指導する。 常時活動を工夫し、拍の流れにのって表現できる力が身に付くよう工夫する。	・音の高さや楽器の音色、大きさのちがいなど、感じ取るめあてを分かりやすくし、発問を工夫する。	・音当てやリズム打ち、身体を動かす活動を取り入れることで、音楽を楽しみ、興味・関心をもてるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・よい姿勢や口・喉の開け方等、発声におけるポイントを分かりやすく指導していく。 ・技能の習得は、教師による個別指導から徐々に教え合い活動を取り入れ、技能習得の時間の短縮を図る。 ・能力別課題を用意し、個に応じた指導の充実を図る。	・表現の工夫や、鑑賞で感じ取ったことを伝え合う活動で、既習事項やめあてを確認し考えることが苦手な児童にも思考がしやすい環境を整える。 ・学習前と学習後で変容が実感できるよう、実際に表現する体験活動を多く取り入れる。	・学習の見通しをもって、自分の能力に応じて学習内容を調整しながら取り組めるように、題材計画や学習過程をわかりやすく提示する。 ・ICTを活用して、即時的に一人一人の状況を把握し、達成できていることは積極的に認め、新たな課題設定に向けた助言をする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・姿勢や口・喉の開け方等、発声におけるポイントを分かりやすく指導していく。 ・中学校との接続も視野に、リズムや、強弱記号、読譜など基礎的な知識の定着の徹底を図る。	・タブレットを効果的に取り入れ、個人やペア、グループの考えを交流し、学びが深められるよう工夫する。 ・歌唱や器楽の表現において、様々な考えを比較し、実際に	・学習の見通しをもち、よりよい表現にするためどうしたらよいか、自分たちで課題を見つけ、どのように練習を進めるか計画する場の設定をする。 ・音楽会に向けて、粘り強く一つの

・パートリーダーを設け、少人数のグループで教え合い活動をし、互いの技能の向上を図る。 ・能力別課題を用意し、個に応じた指導の充実を図る。	表現して試しながら、よりよい表現についての考えをもてるようにする。	ことに取り組む態度が育てられるよう、一人一人に伴走しながら対話的に関わり、達成できたことは積極的に価値づけをする。 ・音楽会で学んだことを、次の学習へ生かそうとする態度を養う。
---	--	---

令和7年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・楽しく表現したり鑑賞したりする学習活動に、すすんで取り組む児童が多い。
- ・協働的な学習活動を通して、造形的な見方や考え方を働かせながら、自分なりのイメージをもち、意味や価値を見いだす力を概ね育むことができた。

(2) 課題

- ・作品づくりの中で感じたことや考えたことを、言葉で伝え合う場面を意図的に設定し、互いのよさや表現の個性を認め合えるようにする必要がある。
- ・一部の児童は、自分のイメージをもてず、友達の発想やタブレットを参考に活動する姿が見られた。児童が表現したいことを見付け、自信をもてるような手立てを講じ自己肯定感を高めることが必要である。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・材料に触れる時間を十分に取、形や色彩、感触などを確かめて特徴を知るとともに、用具の使い方をスモールステップで指導する。 ・手や体全体の感覚を働かせて、自分の感じたことから気付いたことを、材料や用具を使って工夫して表す。	・自分たちの作品や身近な材料などを感じ取ったり考えたりする時間を設け、自分の見方や感じ方を広げる。 ・身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れ、表したいことを見付け、どのように表すか考えさせる。 ・感じたことを言語化して伝える活動を取り入れ、自分の表現をより深く理解できるようにする。	・楽しく学習に取り組むために、完成物や途中経過物を見せることで、製作の過程をイメージできるようにする。 ・交流では、お互いの作品の良い点を認め合うことで、製作の楽しさをより味わえるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の感覚や活動を通して形や色の感じをつかむとともに、手や体全体を十分に働かせて材料や用具を使い、表現できるように授業を工夫する。 ・前学年までの材料や用具の使用経験を生かし、組み合わせたり切ってつなぎ、形を変えたりするなどして、活動を工夫できるように指導する。	・身近な作品などから自分の見方や感じ方を豊かに広げるために、新しい形や色などをどのように使って表現するかを考えさせる。 ・友達の発想を意図的に取り上げたり教え合ったりしながら活動して、題材の工夫を促す。 ・低学年での体験を思い出しながら、新しい表現のヒントをもとに試し、思い付いた表現方法を試行錯誤することで発想や構想を広げる指導を行う。	・進んで表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組ませる。 ・ポイントとなることに着目させ、意欲を引き出すように働きかける。 ・友達とのコミュニケーションをとる場を設定し、互いに高め合い、発展させていく工夫をする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の感覚や活動を通して造形的な特徴を理解するとともに、材料や用具を活用して表現方法などを工夫する。 ・機能や目的を踏まえて構想を立て、作るプロセスの中で発想や創造的な技能を育むことができる題材を設定をする。 ・前学年までの経験や技能を総合的に生かし、表現に適した方法を組み合わせて工夫して表すために、簡単な仕組みから経験に合わせてより複雑な活動へと幅を広げられるように指導する。	・形や色、材料の特徴や構成の美しさなど、どのように主題を表すかを考えさせる学習を展開する。 ・材料や用具に働きかける時間を確保し、児童が感じたり想像したりしたことをもとにイメージを広げ、考えを深めて、活動の見通しをもてるようにする。 ・材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を考えることや、構成や周囲の様子からどのように活動を進めるかについて考えさせる。	・主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組めるようポイントとなる事柄に着目させ適切な指導を行う。 ・中学年までの経験を踏まえて意図的かつ主体的に発展させ、友達とのコミュニケーションを通して、自分にはない新たな見方や感じ方に気付けるような活動を設定する。

令和7年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・日常でのこども達自身の生活課題を振り返ることで、興味をもって主体的に学習に取り組めるようになった。
- ・既習事項の反復練習を行ったことで、技能習得率が向上した。
- ・ICTを活用し映像資料を多く見せることで、課題解決に励む児童が増加した。

(2) 課題

- ・生活経験に差があるため、学習内容の定着にかかる時間に差があった。
- ・布を用いた製作において、作業にかかる時間の差が大きい。

2 授業改善のポイント（観点別）

高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・家庭科用語の定着を図るため、用語の確認を丁寧に行う。用語だけでなく、写真資料を照らし合わせることで更なる定着を図る。 ・既習事項の反復練習や担任・保護者ボランティアによる個別指導を通して、基本的な知識の定着と技能の向上を図る。	・ICTを活用し、他の児童の作品を見合うことで多様な考えや工夫に触れさせ、思考力を高める。 ・製作準備として、紙や布で模型を作ることで完成品を想像し、学習計画を立てやすくする。	・児童の普段の生活から問題意識をもたせ、課題解決に向けた学習を計画する。 ・電子黒板を活用して指示・内容を明確にし、意欲の継続を図る。 ・映像や動画を見せることで、学習内容の汎用性を児童に伝え、実生活の中で活用できることに気付かせる。 ・作業の速い児童には「ミニ先生」として、他児童を補助する役割をもたせることで、作業の速い児童の意欲をあげ、作業が遅い児童も安心して取り組めるようにする。

令和7年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自己の課題を理解して運動に取り組むことで、運動に対する意識や取り組む姿勢の向上が見られた。
- ・SUN3タイムや休み時間には、おにごっこやボール遊び、固定施設、竹馬、一輪車等、様々な運動に取り組む児童が増えた。
- ・体力テストでは、どの学年も昨年度に比べ、上体起こしの記録が伸びた。

(2) 課題

- ・日常の運動経験の差が、体育での技能差につながっている。自己の課題に気付くことが難しい。
- ・体の使い方、動かし方に課題がある。体育の授業を中心に柔軟性や敏捷性を高める運動を取り入れていく必要がある。
- ・体力テストの得点に個人差が見られる。学校全体で評価Cの児童が多い。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各領域の遊びの特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に行えるようにする。 ・準備運動の中に、リズム遊びや鬼遊びなどを取り入れ、楽しみながら、身のこなし方や持久力、様々な運動感覚を養う。 ・体育朝会やSUN3タイムと連携して授業を行う。 ・基本的な動きが身に付くようICTを使って確認することで、動き方の視覚的な理解を促す。	・運動の特性に応じた技能を身に付けるために、場や練習方法を考える時間を設定する。 ・運動遊びを工夫できるように、楽しみ方を教師から提案する。 ・自分や友達が考えた楽しみ方を共有し、自分に合った楽しみ方を選択できるように場を設定する。 ・ICT機器を用いて活動の様子を撮影するなど、動きを振り返るように促す。	・単元の導入では、これから学習していく内容の概要が視覚的に分かるような学習資料を用意する。 ・簡単なゲームや遊びを導入時に取り入れ、楽しみながら学習を進められるような授業を展開する。 ・ICT機器を用いて自分の動きや学習記録を振り返り、児童が目標や意欲をもって取り組めるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各領域の運動の特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に行えるようにする。 ・準備運動の中に、体ほぐしの運動、多様な動きをつくる運動を取り入れ、身のこなし方をはじめ、様々な運動感覚を養う。 ・体育朝会やSUN3タイムと連携して、川跳びや雲梯を行う。 ・ICTを用いることで、グループで動き方の確認をし、教え合いながら技能を身に付けられるよう指導する。	・自己の運動の課題を解決するために、自己の課題に適した場を用意し、その場で練習することができるよう言葉掛けをする。 ・課題解決の方法や活動を工夫させるために、教師が工夫の例を提示したり、友達の提案を広める時間を設定したりする。 ・ICTのカメラや見本の映像等を用いて、自己の課題に気付き、課題解決に向けた手だてとする。	・単元の導入では、これから学習していく内容の概要が視覚的に分かるように資料を用意し、児童の関心が高まるような手だてとする。 ・友達とペアやグループを組むことで意欲的に取り組み、きまりを守って、誰とでも仲よく運動をしようとする意欲を高める。 ・友達同士で認め合える環境や場を設ける。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各領域の運動の特性に応じた用具や器具の使い方やルールを知り、安全に運動が行えるようにする。 ・準備運動の中に補助運動を取り入れ、年間を通して様々な運動感覚を養う。 ・体育朝会やSUN3 タイムと連携して、鬼遊びやボール運動を行う。 ・ICT を用いることで、正しい動き方を理解し、技能を身に付けられるよう指導する。	・自分やグループの課題に沿って練習の場、技術を確認する時間を設定する。 ・課題解決の方法や活動を工夫させるために、教師が工夫の例を提示したり、ワークシートに載せたりすることや、友達の提案を広める時間を設定する。 ・自分やグループの特徴に応じた動き方を知り、その特徴に応じた取り組み方や作戦等を考えるようにする。 ・毎時間の振り返りを充実させ、できたことだけでなく、次はどのように取り組むかまで、ワークシート等にかかせる。	・単元の導入では、これから学習していく内容の概要が見えるような学習資料を用意する。 ・毎時間、自分のめあてを設定し、見通しをもって学習活動に取り組めるようにする。 ・自分事として考えることができるような学習活動を行う。 ・友達同士で認め合い、アドバイスし合える環境を作り、課題をもって取り組めるようにする。